

男子校最後の白角定期戦



4



6



5



3



1



2

1開会式を前に両校の応援団と生徒が対峙 2バレーボールは9連勝を飾った 3応援団長の新山慎也さんを胴上げ（2009年6月号の表紙を飾った） 4一進一退の攻防を繰り広げたテニス。その勝利に抱き合う選手たち 5バスケットボールは静谷史亜樹さんのゴールで勢いに乗った 622連敗中だった剣道。勝利の喜びに思わず涙 78白女吹奏楽部や白高OBも一緒になって応援 99回表、2対2の同点とされマウンドに集まる白高野球部ナイン 10生徒会長の高橋尚也さんが優勝杯を受け取った

5勝 1敗 1引き分け 白高が大勝利を飾る！

5月9日、角田高校対白石高校の平成21年度定期戦が開催された。昭和38年から毎年行われてきたこの戦いは、白高を語る上では欠かすことのできない行事であり、白高最大の行事とも言える。

47回目を迎えた平成21年度は7種目で争われ、気温25度を超える夏日の中、各会場では気温以上に熱い戦いが繰り広げられた。この伝統の戦いに、両校生徒の家族やOBなど、多くの方が観戦に訪れた。



10



9



8



7

第47回定期戦の種目別結果

種目	白石高校	角田高校
卓球	3 ○	2 ×
剣道(本数)	4 ○ (6)	4 × (5)
バレーボール	2 ○	1 ×
ソフトテニス	3 ○	2 ×
バスケットボール	92 ○	61 ×
サッカー	0 ×	1 ○
野球	2 △	2 △

絶対には譲れない相手——それは最大の好敵手——

そのほかの競技でも選手たちは、それぞれの思いを胸に精いっぱい戦った。2連敗中だった卓球では、手に汗握る接戦を制した。ソフトテニスは、剣道勝利の一報で勢いに乗った。野球も、9回に同点に追いつかれ、さらに逆転のピンチを迎えるも何とか押さえた。

角田高校も前評判では不利と予想されていたサッカーで勝利。野球でも9回に同点に追いつく粘りを見せた。結果的には大差だが、種目別ではどの試合も紙一重の勝負。定期戦の名にふさわしい戦いだった。

47年の通算成績は、白高の31勝13敗3引き分け。今年もまた、この季節がやってきた。

中でもひとときわ輝いていた競技が剣道。前年まで22連敗中。通算成績も5勝41敗と大きく負け越していた。しかし、今年も角田高校という大方の予想を裏切り、4勝4敗2引き分けという接戦の末、本数勝負となり6対5で見事勝利。剣道部主将の佐山良太さんは、「最後に勝てて本当に良かったです。皆さんの応援のおかげです」と笑顔で語った。試合後のうれし涙と感激は、選手たちの一生の思い出となり、宝となるだろう。

悲願の剣道部——22連敗の壁を乗り越えた

新入生は真の白高生として認められるために、2年生は1年生の時とは違う思いで、そして3年生は最後の年を飾ろうと、両校の選手・応援団・生徒が全身全霊をかけて戦いに挑む。その中で生徒たちが得たものは、勝利の喜びだけではない。お互いに切磋琢磨することで、自らを成長させてきたのである。

昭和38年から毎年行われてきたこの戦いには、単なる対校戦にとどまらない、人を成長させる何かがある。

47年の歴史——仙南の雌雄を決する戦い